

「日本男児、立ち上がれ！」

我が日本の目前に、終戦後最大の国難が迫っています。

尖閣は、二〇一〇年以降、中国共産党の海警局の公船に実質支配されています。北海道のニセコ周辺や富良野のリゾート地、伊豆・箱根・富士山の観光地も支那人に買い叩かれています。文明国で外国人に国土を売ることを許す国はありません。

「日中友好」は、日本の最新技術と莫大な現金を支那に無残にむしり取られ、何等「友好」の果実はなく、恩を仇で返されて終りです。裏切られたと、泉下で松下幸之助は泣いていることでしょう。

「一旦緩急あれば義勇公に奉じ」と『教育勅語』にありますが、当に今なのです。

政治家は党派を超えて国家利益を議論し、本当の覚悟・矜持が問われています。

外務省を筆頭に、政府・行政の対外政策の真価が問われます。

それ以上に大切なことがあります。我々中小企業の社長の覚悟です。

我々中小企業の社長が全社員の生涯に渡る扶養義務をもち、将来に希望と夢を与える大前提は、日本が日本であり続ける事です。もし万一、日本が支那に支配され、乗っ取られたら、どうなるでしょう。

とても、今までのような、誠実で正直で、まともな経営はできません。

法の支配も、自由も、民主主義も無い国、共産党独裁が支那の現実です。

新疆ウイグル自治区でのジェノサイド、モンゴル、香港の実情を知るにつけ、かの国の残酷さに背筋が寒くなります。

自分の国を守るのは自分であるという常識を、戦後七十余年考えもせず、軍備はアメリカに任せきり、国民は平和ボケして、我々も会社を経営して来たのです。

社員を守ることに、お客様の役に立つこと、経営を発展させること、——これらは、日本国が日本国として自主憲法を持ち軍隊を持ち、日本人が日本人として誇りと自信を取り戻すことで、初めて達成できることです。

我々中小企業の社長は、**①先ずは、我が社が利益を出して、納税すること。②経営の目的、仕事観、人生観を繰り返し教えること。③技術を磨き、能力を高め、社会に役立つこと。④家族、社員、仲間同士が仲良くすること。⑤何より、社長が、大義の為に、喜んで自己犠牲を払うこと。**

軍事力の前に、日本人一人一人が「支那よ、来てみろ！戦うぞー！」の気魄と強い意志を見せることです。

さあ、社長、令和四年です。**新年に改めて「国家」「国益」「憲法」「国防」について考えて参りましょう。**仕事が、如何に深く人間を磨くものかが分かります。

今月のポイント

経営理念の真価が

問われる年

